

様式1 平成31年度 山梨県立白根高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針 「自主自立」「進取研鑽」の校是の下、幸福な人生を送るために必要な資質・能力を身につける生徒の育成を目指す。

山梨県立白根高等学校 校長 相沢 季里

本年度の重点目標	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進
	規範と相談による生徒指導体制の確立
	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進
	体育・文化活動による健康・安全教育の充実

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			年度末評価(3月25日現在)				
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進	主体的・対話的で深い学びによる学力向上の推進	主体的・対話的で深い学びを重視した授業研究等に、組織的・計画的に取り組み、授業改善を図ります。	校内研修会の実施状況 相互授業観察(授業観察シートの分析)	「主体的・対話的で深い学び」を具現化する授業改善のために研修会を実施した。特に、「やまなしスタンダード」についての理解を全教職員に図った。 ・年間2回の相互授業参観を実施し、教科を超えて学び合う機会とすることができた。 ・クロスカリキュラムの実施を通して、教科横断型の取組を図った。 ・予習・復習など、家庭学習の習慣化はまだ図れていない結果がアンケートからうかがえた。	B	・家庭学習時間の確保と、授業と家庭学習との有機的な繋がりを図ることが次年度への課題となった。そのため、家庭(保護者)との連携をさらに深めるよう努めていく。 ・次年度も積極的に授業参観を実施し、互いに学び合う教職員集団を構築していく。 ・クロスカリキュラムについては、次年度も継続して行い、教科を超えて学校全体で組織的に取り組んでいく。
2	規範と相談による生徒指導体制の確立	規範と相談による生徒指導体制の確立	学校全体として組織的な生徒指導体制を確立し、規範意識の向上を図り、基本的な生活習慣の確立に努めます。	挨拶・身だしなみ指導及び登下校指導・マナーアップ運動の実施状況	「挨拶・身だしなみ・登下校指導においては、全教職員で行う指導体制のもと成果を上げることができた。『基本的な生活習慣の確立』について、保護者アンケートや教員アンケートにおいて高評価となっている。 ・生徒理解と居場所づくりにおいて、学年を中心に担任、教科担当、保健室等の連携が密接になされ、生徒に寄り添った指導がなされた。また、教育相談体制も、コーディネーターを中心に組織的に行えた。SCの活用も効果的であった。 ・いじめを許さない雰囲気づくりに努めた。特に、SNSの利用について、重点的に指導した。 ・家庭や地域社会への情報発信として、各係からのたよりやHPによる広報活動を積極的に行った。 ・地域住民との防災訓練を実施し、学校と地域、生徒及び教職員と地域住民との交流が深まった。	A	・学校の教育目標及び校長の運営方針を職員会議や個別面談等で教職員への理解を図り、生徒指導にチームとして取り組む協働体制を構築することができた。 ・教職員全体で「学校評価」に関わる研修会を実施し、共通理解を図り課題や問題点を認識するとともに、次年度に向けた対策を検討した。 ・地域社会との関わりを強化するため、わかば支援学校との交流やフードバンク山梨への協力を次年度も積極的にやっていく。 ・コミュニティ・スクール準備校として、組織づくり等を万全に行うため、地域の各関係機関と連携を密に行っていく。
3	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進	幸福追求を目的とするキャリア教育の推進	生涯の幸福追求を目的とし、個々の「在り方生き方」を考えさせるキャリア教育を推進します。	「総合的な学習・探究の時間」を通じた課題やレポートの内容評価	「総合的な学習・探究の時間」では、目指す生徒像に沿った授業が実施できた。 ・インターンシップの実施は、事前・事後の指導も含め生徒の進路意識の向上に成果を上げることができた。生徒も意欲的に臨み、アンケートでもほとんどの生徒が有意義であったと答えている。 ・フードバンク山梨の活動に対して、生徒が中心となり積極的に参加し、ボランティア精神の涵養を図ることができた。 ・看護師体験等の体験学習に生徒を積極的に参加させ、自己の進路目標を明確化させるとともに、社会性などの社会で求められる能力資質を育むよう努めた。	A	・生徒の多様な進路目標を実現させるため、教育課程の編成や授業改善、小論文・面接の個別指導などにおいて、さらに工夫・改善を図っていく。 ・インターンシップの実施については、個々の生徒により明確な目的意識をもつて臨ませるとともに、生徒自身が目指す職業を体験できるような就業先の発掘を推進していく。 ・看護師体験等の体験学習の機会を多く設け、キャリア教育の一層の充実を図っていく。
4	体育・文化活動による健康・安全教育の充実	体育・文化活動による健康・安全教育の充実	部活動に積極的に取り組む生徒を育て、学業と部活動の両立を以て、学校生活に対する充実感や達成感を体験させます。	学校HPのブログや広報誌の活用状況 学校評価アンケートによる評価・分析	・生徒の活動をブログや生徒会だよりを通して、定期的かつタイムリーに紹介することができた。 ・部活動においては、「やまなし運動部及び文化活動活動ガイドライン」に則った、本校の部活動活動方針を教職員に周知し、適切な活動がなされるよう努めた。特に、活動日と休業日を明確に設定し、めりはりのある活動計画を策定し、併せて学習との両立にも留意した。 ・部活動の生徒を中心に、教職員と生徒間での挨拶が自然とできるようになってきた。来校者に対しても同様である。	A	・各部において、年間及び月間の活動計画を策定し、生徒が見直しを持って活動できるように努める。また、めりはりのある活動を継続して行い、学習との両立を図っていく。 ・部活動への加入率をさらに上げ、部活動が活発に行われる環境を醸成し、生徒の学校生活の充実と学校の活性化に繋げていく。 ・外部団体に所属し活動している生徒に対しても、学校生活の充実、特に学習との両立がなされるよう指導していく。

学校関係者評価	
実施日(令和2年3月27日)	
評価	意見・要望等
4	・生徒の学力等、実態に応じた教育課程の編成及び授業実践を行ってほしい。 ・生徒の多様な進路希望を踏まえ、その実現に向けて幅広く対応できる授業内容を展開してほしい。 ・生徒との懇談において、生徒が主体的に参加でき、興味・関心を引く授業を望む声があったので、そのような授業実践に向けて授業改善への取組を継続してほしい。
4	・4つの指導重点目標に向けて、適切な取組が行われている。 ・スクールスローガン「HAPPY」は、生徒が学校生活を生き生きと過ごし、自己実現と将来必要となる資質能力を身につけるために大切なことを掲げている。このスローガンを念頭に、教職員が一丸となって教育活動に取り組んでほしい。 ・PTA活動も活発に行われ、地域との連携もよく図られている。 ・交通マナーについては改善しているが、自転車の事故が多いことは課題として注意喚起が必要である。また、家庭との連携も必要である。 ・SNSを通じた誹謗・中傷が社会的に大きな問題(いじめに繋がる事例もある)となっているので、保護者にも協力を依頼して適切な手立てをとるべきである。
4	・南アルプス市以外の地域からの生徒も多く、地域との連携の度合いも薄くなりがちである中で、地域の事業所等でのインターンシップやわかば支援学校との交流、フードバンク山梨等の協力等の活動は十分評価できる。 ・地域住民との防災訓練は大変有意義であり、次年度以降も継続して実施してほしい。 ・2年生全員参加のインターンシップの実施など、「幸福追求を目的とするキャリア教育の推進」が積極的に推進されている。 ・学校と保護者との間の連携や信頼関係は概ね構築されている。 ・生徒の悩みや問題に関して気軽に相談できる体制の構築については、今後ぜひ継続して取り組んでほしい。
3	・文武両道を軸とする部活動の活性化への取組は、継続的に行われている。 ・今後もさらなる部活動の活性化を図ることを望む。特に、運動部の活躍を期待する。 ・白根高校の特色、あるいは魅力となるような部活動の推進を期待したい。そのためには、指導体制の充実とある程度の実績づくりが必要である。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。